

This is a newsletter from Shinshu University International Center (SUIC).
In case this email newsletter is unreadable, please try the online version
http://www.shinshu-u.ac.jp/institution/suic/upload/pdf/publications/suicnewsletter_vol.44.pdf

◆◆◆ Vol. 44 2013. 10. 7 ◆◆◆

◆◆◆
◆◆◆
信州大学国際交流センター ニュースレター
Shinshu University International Center (SUIC) Newsletter

◆◆◆ ◆◆◆
発行：信州大学国際交流センター(SUIC)
<http://www.shinshu-u.ac.jp/institution/suic/>

[今号の目次]

- * ごあいさつ
- * 最近の出来事・お知らせ
- * 信大NOW No. 82
- * スタッフ近況報告 菅井 綾子 先生（国際交流センター非常勤講師）
- * 生活ちょっとコラム

■□
□ ごあいさつ

みなさんこんにちは！ ひさしぶりのニュースレターです！

日本では暑い夏が終わりました。自転車での通勤途中、あちこちの庭先からキンモクセイの香りが漂い、秋になったなあと感じる今日この頃です。皆さんは秋といったら何を思い浮かべますか？

日本では「食欲の秋」「読書の秋」「スポーツの秋」などと言います。先日、子供の小学校で運動会がありました。赤組と白組に分かれ、かけっこ、綱引きといった万国共通の競技から、大玉おくり、騎馬戦、棒倒しなどの日本独特のものまで、様々なゲームで盛り上がります。組体操（集団で体の上に乗ったり、重なりあったりしていろいろな形を表現するもの）では、子供たちが素晴らしい演技を見せ、感動しました。時間があれば、日本の運動会について調べてみてくださいね。

■□
□ 最近の出来事

★ 8月3日、留学生が松本ぼんぼんに参加しました

信州松本の夏といえば松本ぼんぼん！在学中に参加したというみなさんも多いのではないのでしょうか。今年のおそろいのTシャツを着たり、思い思いの浴衣（ゆかた）や甚平（じんべい）に身を包んで、50人以上の留学生やその家族が参加しました。皆、疲れも忘れ、午後6時からおよそ3時間の間、踊りながら市内をめぐる楽しいひとときを過ごしました。

写真はこちら

↓ ↓ ↓
<http://www.shinshu-u.ac.jp/institution/suic/upload/photo/2013matsumotobonbon.jpg>

★ 対外経済貿易大学（中国）と学術交流協定を結びました

9月6日、中国北京の対外経済貿易大学と学術交流協定を結びました。

対外経済貿易大学では127カ国3000人以上の留学生を迎えており国際交流が盛んです。また多くの学生が日本語を学んでおり、今後、交換留学や研究交流などが期待されます。

調印式で対外経済貿易大学の趙副校長は、「この日を待ち望んでいた。両校にとって新たなページを開き、今後の日中関係を支えるような交流をしていきたい。」と挨拶されました。

詳細はこちら

↓ ↓ ↓
<http://www.shinshu-u.ac.jp/institution/suic/aboutus/intl-act/post-207.html>

★信州大学国際交流同窓会（北京・上海・ソウル）を開催しました

信州大学国際交流同窓会は、このたび北京（9月6日）、上海（9月6日）、ソウル（9月7日）の各地にて総会と懇親会を行いました。

今回で3回目となる各地の同窓会では、もと留学生や現地で活躍する日本人卒業生などが集まり、それぞれの近況などを語り合いました。今後もますますOB・OGによる国際ネットワークの広がりが期待されます。

詳細はこちら

↓ ↓ ↓
<http://www.shinshu-u.ac.jp/institution/suic/alumni/post-208.html>

★松本キャンパスにて信州大学国際交流同窓会が行われます！

2013年信州大学国際交流同窓会を以下のとおり開催しますのでお知らせします。是非ご参加ください。お待ちしております。

日時 2013年11月2日（土）18時から

場所 信州大学松本キャンパス「福利厚生施設（旭会館）」
アクセスマップ・キャンパスマップ① ↓
<http://www.shinshu-u.ac.jp/guidance/maps/map05.html>

参加費 3千円

同窓会費（終身会費） 2千円 * 納入いただける方はお願いします。

申込みについて、詳細はこちらをご覧ください。

↓ ↓ ↓
<http://www.shinshu-u.ac.jp/institution/suic/alumni/reunion/post-204.html>

★秋期国際交流センター留学生を迎えました

国際交流センターではこの秋、中国、韓国、アメリカ、ドイツ、オランダなどから42名の交換留学生・日研究生・短期プログラム生を迎えました。また今年は初めてイタリア・台湾の協定校からも交換留学生を迎えました。

9月27日から後期授業が始まり、夏休みでひっそりしていたキャンパスが急に賑やかになりました。

詳細はこちら

↓ ↓ ↓
<http://www.shinshu-u.ac.jp/institution/suic/aboutus/cat3144/2342.html>

■ □
□ 信大NOW No. 82のご案内

信州大学のニュース、歴史や人にまつわる記事、イベントや公開講座の紹介、研究者の研究内容など、信州大学が良くわかる広報誌「信大NOW」最新号の目次を紹介します。

<No. 82>

- 富士山の世界文化遺産登録の年に
第3回東アジア山岳文化研究会 信州大学で開催
- 信州発! 新しいモノサシ 第2回
スマートテキスタイルがもたらす快適な未来
- 工学的知見で農業を成長産業へ導く―
食・農産業の先端学際研究会 F A I D (フェイド)
- 長野県下伊那郡根羽村+信州大学農学部
連携協定で進む持続可能な村づくり
- 平成24年度環境教育海外研修
水の都“ヴェネチア”に見る環境と経済

○TOPICS

第6回「大学は美味しい!!」フェアに今年も信州大学出展
大学公式Facebookページを開設しました

○信大キャンパスの「樹」シリーズ⑬ エノキ 松本キャンパス

全文は信州大学の公式Webサイト上でデジタルパンフレットとして公開
されていますので、ぜひご覧ください。↓ ↓ ↓
<http://www.shinshu-u.ac.jp/guidance/publication/#publication>

■□

□ スタッフ近況報告 菅井 綾子 先生（国際交流センター非常勤講師）

日本語講師の菅井です。2013年4月から国際交流センターで日本語授業を
担当しています。

私は子供はいませんが、弟の子供は、来年小学生です。
つまり、今は幼稚園に通っています。ところでみなさんは、日本の幼稚園
と保育園の違いを知っていますか。日本では、このふたつは明確に区別され
ています。

幼稚園は私立が多く「小学校の前にすこし勉強し、社会性を身につけると
ころ」です。保育園は公立で「親が働いている場合、代わりに預かるところ」
です。ですから、幼稚園は午後教育が終わり子供は毎日同じ時間に帰ってき
ます。保育園は夕方まで預かるし、親が残業の時は延長の申し込みをすれば
夜まで保育をしてくれます。

また幼稚園に払うお金は「学費／月謝」といって全員同じ金額ですが、保
育園は「保育料」といって、親の収入によって決まります。共働きで収入が
多ければ、保育料も上がるというわけです。

勤める先生が必要な資格も違います。「幼稚園教諭」と「保育士」です。
大学や短大の幼児教育専攻者は、同時に両方の資格をとることが多いようです。
幼稚園は字を習い折り紙などを通して知能の発達を主眼にしますが、保育園は
健康と生活面を重視し、昼寝があります。

といっても、日本人の子供はだいたい小学校に入る前にひらがなは覚えま
すし、近ごろ自主性を育てようと自由遊びが多い幼稚園もあります。また、
地方ほど少子化が進み、施設が一つしかない市町村などでは最近『幼保一元
化』という試みも始まっています。

みなさんの国でもこどもは大切にされていると思います。共働きが当たり
前の現代、子供の教育と成長はどのように考えられているのでしょうか。

■□

□ 生活ちょっとコラム ～ 中国初上陸！～

先にご紹介した対外経済貿易大学との交流協定調印式・北京同窓会に私も
出席させていただき、今回、人生初の中国上陸となりました。

対外経済貿易大学では、大都市の中にあるとは思えない緑豊かなキャンパス、
ゲストを迎える素晴らしい貴賓室、多くの学生が暮らす学生寮などに感激しま
した。また北京同窓会では、年代を超えて様々な分野で活躍する卒業生と会い、
大変貴重な楽しい時間を過ごすことができました。

また、空き時間には地下鉄に乗って、天安門広場や世界遺産の天壇公園など
にも行ってみました。天安門広場はその広さにびっくり！多くの観光客で賑わ
っていましたが、ゴミが一つも落ちていないことにも驚きました。小さなゴミ
ひとつでも落ちていたら、どこからかお掃除の人が現れて、さっと拾ってい
きます。さすが、ここは中国の顔ともいえる場所なんだな、と思いました。

地下鉄に1人で乗るのはすこし勇気がいりましたが、さすが漢字の文化！
路線図や駅の表示もなんとなく分かるので、すぐに慣れました。これは、嬉し
かったです。
また地下鉄の中では、お年寄りや小さな子供を抱いた女性が乗ってくると

